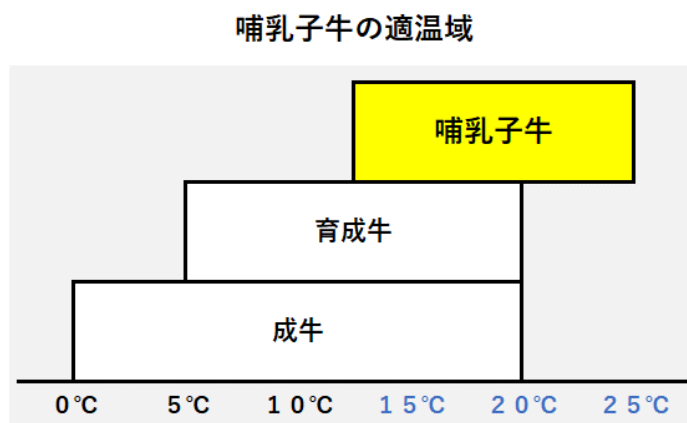


あしよろ・ハードサポート通信

日々の冷え込みが厳しくなり、日照時間も一年で一番短い時期となりました。今年ももうすぐ終わりますが、来年、再来年に向けて後継育成牛の確保は酪農家の生命線です。そのためにも子牛への厳寒期対策をしっかりと行い、元気に育ててもらいましょう。

◆ 哺乳子牛はとても寒がり

哺乳子牛は体重当たりの体表面積が広く、またルーメン発酵熱もないので体の熱が逃げやすくなっています。そのため哺乳子牛は育成牛や成牛に比べると高い温度下でも寒冷ストレスを受けはじめます。右の図は各ステージの適温域のイメージ



で、哺乳子牛の適温域は一般的に13°C~25°Cと言われており、環境温度が5°Cを下回ると増体量や免疫力に悪影響が出る恐れがあります。また体が濡れていたり、風にあたっていたり、床冷えが強い状態だったりすると、適温域でも体感温度が大きく下がってしまいますので、注意が必要です。

◆ 子牛が生まれたら

生まれたばかりの子牛は文字通り「濡れ子」の状態です。体が濡れたままの子牛はどんどん体温が奪われていき、もし低体温症になってしまうとその後の発育に悪影響を及ぼしますので、子牛が生まれたらまずタオルなどでよく拭いて体を乾かしましょう。右の写真はカーフウオーマーという装置で、最近多くの酪農家さんで導入されてきています。カーフウオーマーはドーム状の構造で中にスノコが敷いてあり、スノコの下から温風が出るので生まれた子牛を中に入れておくと保温と乾燥を同時に行ってくれます。

また初乳の給与も体を温める効果や子牛への大事なエネルギー源にもなりますので、適切なタイミングで子牛に初乳を給与しましょう。



◆ 環境温度への対策

子牛に寒冷ストレスを受けさせないためには、床の状態がとても大切です。特に床がコンクリートの場合は冬場の冷えが厳しく、さらに敷料が少ないと糞尿などで体が濡れてしまい体感温度が大きく下がってしまいます。一番上の写真のように子牛の飼養スペースにはたっぷりと敷料を入れて床冷えをブロックし、乾燥させた状態を保ちましょう。

子牛の体温を保つために、カーフジャケットなどを着させることも良い方法です。真ん中の写真は市販のジャケットを2枚重ねで着用させています。現場ではジャケットの代わりに使い古しの毛布などを加工して使用していることもありますね。また、子牛の体感温度を上げるためにネックウォーマーの活用もおすすめです。

子牛の飼養スペースにヒーターの設置が可能であれば、厳寒期への対策に効果的です。一番下の写真は和牛繁殖農家さんでの例ですが、子牛のみ入れる場所にヒーターを設置し、飼養スペース全体をビニールシートで覆い熱が逃げないようにしています。ただしこの場合は換気状態が悪くなりますので日中はビニールシートを外してあげると良いでしょう。



たっぷりと敷料が入った寝床



ネックウォーマー

ジャケット
2枚重ね



ビニールシート

子牛スペースにヒーター

この他にも床冷え防止に子牛の寝床にスノコを入れる、熱を逃がさないためにカーフハッチへ毛布をかける、すきま風を予防するために壁際へ断熱材を設置するなど、飼養管理状況によって様々な寒冷ストレス対策があります。まずできることから、子牛への厳寒期対策を行ってみてはいかがでしょうか。 (市川雷太)

・ 魁！銀河塾は1月にJAあしよろ農産部の上原係長を講師に、畑関係の勉強会を行う予定です。詳細は後日FAXにてご連絡します。

・ 今年も一年間、大変お世話になりました。どうぞ良いお年をお迎えください。